

語り継がれる 舞鶴の民話



第一話 二ツ橋 (倉谷・大内)

現在、車道の4車線化などが進む二ツ橋交差点付近。伊佐津川に架かり、倉谷地区と大内地区をつなぐ二ツ橋にはこんな話があります。

昔、まだこの辺りが田んぼだった頃、余内から田辺の方へ行くにはこの橋を通らなければなりません。ある日、余内村の人が田辺でお祝い事があり、月夜の中、お土産を持って帰路に就いていました。するとおかしなことに伊佐津川に2つ橋が架かっているではありませんか。道を間違えたわけでもありません。しかし村人は「良い橋ができたものだ」とほろ酔い加減で橋を渡るうとします。すると「ズザ」と橋が下がり、村人は川



二ツ橋

岸から下へ落ちてしまいました。お土産はすっかり持っていました。村人はそのまま眠ってしまいました。

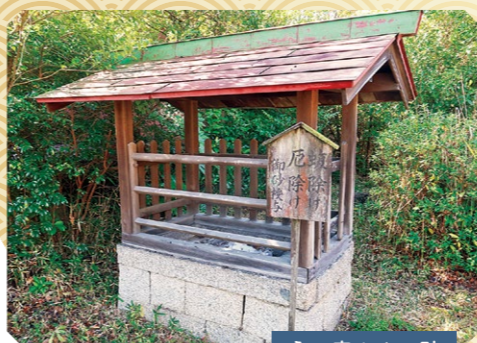
先祖が大切にしてきた教えや道徳、価値観を織り交ぜながら語り継がれてきた民話。そんな地域ごとの特色を持つ民話が、舞鶴にもたくさんあることをご存じですか。

今回は、市内の各地域に残る民話の一部を紹介します。

《広報広聴課》

第三話 うの森さん (南田辺)

明倫小学校に残る藩校「明倫館」の門の前に「鷗嶋神社(うの森さん)」があります。ここには、マムシよけの砂があることでも知られています。昔、藁葺商として暮らしていた権兵衛という男がいました。ある朝、野道を歩いていると、足に何か引っかかり



うの森さんの砂

ようとしません。仕方なくうの森さんまで歩くことにして、うの森さんで改めて蛇を見ると、巻き付いていたのはなんとマムシでした。つかむこともできず、試しに地面の砂をかけてみると足から離れていきます。不思議に思い、もう一度砂をかけるとマムシは急いでうの森さんから出ていきました。

この話がどこからか伝わり、うの森さんの砂を家の周りにまくとマムシが寄り付かず、身に付けているとマムシにかけまわることがないといわれるようになりました。

第二話 池ヶ首 (岡安・安岡)

朝来岡安の北、登尾方面へ越える峠の中ほどに「蛇ヶ池」という大きな池があり、大蛇が住んでいました。そのころ泉源寺には、両親に大切に育てられている美しい娘がおり、夜になると娘の部屋を訪ねてくる若者がいました。娘のことを心配した両親はある夜、そと若者の袴に長い糸を縫い付け、若者の素性を調べようとしています。翌朝、父親がその糸をたどると、なんと蛇ヶ池まで続いていました。若者の正体は蛇ヶ池の主の大蛇



青葉山ろく公園

だったのです。そういえば娘は近頃食事もとらず、目に見えて痩せ細ってきたと悲しむ両親は、村人たちと大蛇退治を決行します。池のそばで太鼓をたたき、大きな石を投げ込み、池を抜けた大蛇を村人たちは松明とくわを振り上げ追います。途中、村人6人が大蛇に飲み込まれましたが、弓が上手な若者によって、ついに大蛇を退治することに成功しました。現在も祀られている白屋の六地藏は、大蛇に飲み込まれた6人を哀れんで作られたと。また、若者が大蛇を射止めた所は「安岡小字蛇死」の



六地藏

地名として残っており、蛇ヶ池のあったところは「岡安小字池ヶ首」で、現在は青葉山ろく公園になっています。



二 池ヶ首
一 二ツ橋
三 うの森さん



鷗嶋神社

ました。足元を見るとなんと蛇が巻き付いています。ゆっくり歩きましたが蛇は離れ